2026（令和８）年　５月発行　　クラブ会報　第１号

2025（令和７）年度　２６年目の活動記

KUSUURA

楠浦陸上クラブ

昨日の自分に勝て

Overcome what you were yesterday.



２０２６．３．２９お別れ会

～挨拶～

監督　大中　靖



今年は腰の治療、頭の手術で、2度入院することになり、みんなや周りの方々にたくさんの迷惑と心配をかけてしまったこと、本当に申し訳なく思っています。

当たり前のようにグラウンドに立ち、みんなと一緒に走っていた日々が、どれほど幸せな時間だったのかを、改めて思い知らされました。思うように体が動かない中で、みんなの頑張る姿や声を思い浮かべ、「もう一度みんなと同じ時間を過ごしたい」と、何度も強く願っていました。

いつも伝えていることですが、ケガをしてしまったら、どんなに頑張ってきたことも続けることができません。だからこそ、自分の体を大切にしてください。無理をせず、体の声に耳を傾けながら、一日一日を大事に過ごしてほしいと思います。今、元気に走れること。仲間と笑い合いながら練習できること。その一つひとつが、決して当たり前ではない、大切な時間です。その時間を大事にしながら、これからも一緒に前に進んでいきましょう。

コーチ　山田　裕己



昨年度後半は、監督不在のため私が長距離を担当いたしました。自主練ではジョグ中心になることが多いと思います。そのため、クラブ練習ではメニューのバリエーションを増やし、強弱をつけながら、マンネリ化しない内容を意識して指導しました。選手のスピード持久力やフォームの安定など、競技面での成長につながれば幸いです。部活と違いクラブはNEXTを含めて週4日ですので、それぞれの自主練も工夫をしながら取り組みましょう。そうすればタイムが向上するはずです。8年度も、一人ひとりの力をさらに伸ばせるよう、工夫を重ねながら指導してまいります。

保護者会会長　　濱　将寛



令和7年度一年間、楠浦陸上クラブの活動にご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。

この一年、保護者会長を経験させて頂き、子供達を見ていく中で、練習や大会、クラブイベントを通して、記録だけでなく努力することの大切さや、仲間と支え合いながらお互いを高め合うことの大切など、子供達から多くの事を学んだ気がします。子供達は一人一人個性があって、活発でどんどん自分を出せる子や、内気でなかなか自分を出せない子、みんなが自分の子供のようなかわいいと思える存在でした。

楠浦陸上クラブは県内でもトップクラスのきつい練習をするクラブだと思います。でも退部する子供はほとんどいません。それは監督はじめコーチ陣の熱心であたたかいご指導のおかげだと思っています。私自身陸上の経験はなく、子供達が陸上やってみたいと言ってくれなかったらなかったこの出会いに今では感謝しています。

至らない点も多かったと思いますが２人の副会長(竹井、松本)に支えて頂き、また保護者の皆様の協力で無事に一年間務めることが出来ました。本当にありがとうございました。

～クラブ員文集～

○楠浦小６年　小林　美結



私は、小学 3 年生の時に学校の友達と一緒に楠浦陸上クラブに入りました。クラブに入った理由は、学校のクラスに足が速い男子がいて、その子に少しでも追いつけたらなと思ったからです。

はじめは練習にまったくついていけなくて何度も辞めたいと思った時もありました。でも監督やコーチ、友達の声かけで「まだあきらめないで頑張ろう」という気持ちになり頑張れました。それから陸上の友達もでき、ますます陸上が楽しくなり好きになりました。

6 年生の時、監督からキャプテンに指名され、はじめは不安しかありませんでした。理由は、私は声も小さく、うまくまとめることができるか心配だったからです。それでもまわりの友達の応援や支えもあり、なんとか１年間続けることができました。とても貴重な経験ができました。

陸上は練習がとてもキツイですが、何の競技でも『走る』という事は繋がるので、これからも日頃の練習から精一杯頑張り、今後も走り続けたいと思います。

○楠浦小６年　濱　莉乃亜



楠浦陸上クラブの思い出は日々の練習です。私は三日坊主で自主練しても続かなく、練習でも友達と喋ったり、サボったりして記録が全く伸びませんでした。でも周りの友達の記録は伸びていき、「何で私だけ記録伸びないの」と思い、「辞めたい」や「楽しくない」など思うようになりました。でもクラブイベントで行った BBQ、山登りを参加しみんなで盛り上げて、「楽しい」や「辞めたくない」と思うようになりました。それから、私が出場しない大会でも、応援をしに行くようになりました。6 年生の後半、足を捻挫し初めてマネージャーをやりました。すると、監督から「莉乃亜は周りがよく見えるし、まとめる力がある」と言われました。その言葉を言われてから、選手として頑張るのではなく選手を全力サポートするマネージャーとして頑張ろうと思いました。

中学での目標は選手を全力で支えて、楠浦陸上クラブのみんなから頼られるマネージャーになる事です。そのためには監督やコーチにやり方を聞いたり、自分で工夫してマネージャーをしていきたいです。これからもみんな仲良く、楽しい楠浦陸上クラブを作って行きたいです。

○亀川小６年　木下　奏音



4 年間のクラブでの一番の思い出は、6 年生になって自己ベストを何度も更新できたことです。僕が陸上で一番楽しいと思うときは、自己ベストを更新できたときだからです。出場した種目は全て記録を更新できましたが、特に 100m や 4×100m リレーのタイムが伸びました。日清カップでは 4×100m リレーで目標としていた決勝まで行くことができ、天草学童の 100m では、13 秒台を出し、決勝まで

行くことができました。3月にあった天草学童陸上記録会では13秒75と最後に自己ベストを更新することができました。

中学生では短距離に専念するつもりなので、常に自己ベストを更新することを目標にしながら、クラブでの準備や後片付け、体操の声出しなど、基本のことからしっかりとしていこうと思います。

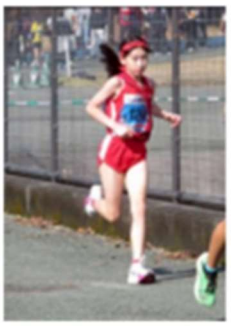
○亀川小6年　竹井　小白



私が陸上を始めたきっかけは、持久走大会の三キロを完走したくて始めました。最初はついていけなくてとてもきつかったです。ですが、監督やコーチの指導のおかげでついていける練習が増えて、大会でも記録更新をしていくことができました。練習がとてもきつすぎて監督を鬼と思ってしまったこともありますが、続けてよかったなと思っています。中学校でも続けるので、きつい練習の時に監督を鬼だと思わないように自分が監督の練習についていけるよう努力をします。

目標は、走り幅跳びの記録更新はもちろん、長距離も速くなれるように頑張ります。

○南小6年　鳩野　陽彩



クラブでの思い出では日々の練習です。きつくて上手くいかない事もたくさんあるけど足が少しでも速くなったり自己記録を更新したりした時のモチベーションが上がるのが嬉しいからです。

特に頑張ったこと、私は長距離を中心に頑張っていて自分のために苦しくても最後まで走りきることを大切にしてきました。途中で諦めたくなる時もありその気持ちに負ける時もあったけど「自分のため」と思うと諦めない方が多くなり自分的にも頑張れたんじゃないのかなと思いました。

中学での部活は3年間の間で全国大会に行く事を目標にしたいです。そのために足を痛めないようにエ夫したり自主練を頑張ってみたり出来る限りの工夫を自分で見つけ自分の力を出し切れるまで頑張りたいです。

○南小6年　松本　結愛



私は小学5年生の時に楠浦陸上クラブに入りました。クラブには足の速い子達が沢山いて、私ももっと速くなりたいと思いました。最初は練習がきつかったけど、続けるうちに慣れてきて、速い子達と同じペースで走れるようになりました。大会では自己ベストを更新出来たり、学校のマラソン大会で3位になれたことがとても嬉しかったです。

大会の中で特に思い出に残っているのはRKK学童駅伝です。大会前にインフルエンザになり1区で思うような順位ではなかったけど、全力で走ることができ、とてもいい経験になりました。

また、違う学校の子と友達になれて、みんなで練習を頑張ったことや、バーベキュー、牛深ウォーキングをしたことは、とても良い思い出です。

中学校では大変なこともあると思うけど、監督・コーチが言っていた「昨日の自分に勝つ」という言葉を忘れず、陸上を続けていきたいと思います。800m で 2 分 30 秒台を目指し大会でも活躍したいです。

○亀川小６年　羽山　創志



ぼくが陸上を５年生の時に習い始めて、最初は練習がきつくてついていけないことが多かったです。けれど、陸上を続けていくうちに練習に慣れてきて少しずつついていけるようになりました。そこで、ぼくは初めて大会に出ました。その大会では、１５秒台のタイムを出して思っていたよりも速く走れたのでうれしかったです。そして、もっと速くなりたいと思い６年生の時にネクストに入りました。ネクストに入ってすぐのころはきつくてついていけなくなりそうなときもあったけど、頑張ってついていきました。そこで、記録会に出て１４秒後半のタイムが出ました。記録を更新できたのでうれしかったです。その次に、日清カップという熊本の大きな大会に出ました。そこでは、タイムが１５秒台にさがっていました。だけど、めげずに練習に取り組みました。そして、６年生最後の大会で１４秒前半のタイムが出ました。このとき、ぼくは練習を頑張ってよかったと思いました。ぼくは、これからも陸上を続けていきどんなときもあきらめずに練習を頑張りたいです。

○河浦中 3 年　濱﨑　蓮



僕が、陸上を頑張ってきた中で一番思い出に残っている出来事は、800m でいいタイムを残せたことです。チャレンジ陸上で中学生になって初めて 800m を走りました。初めて走るからあまりいいタイムは、期待していなかったけど走り終わった後がとても
気持ちよく楽しいレースでした。終わった後、監督から 200m をどのぐらいのペースで走っていたか聞くと、とても早く自分でもびっくりしました。

これから、高校に入学してから陸上を続けていきたいと思っています。高校では、800m で県一位を目標に頑張りたいです。生活していく中で様々な壁にぶつかると思います。それでも、諦めず練習を頑張っていきます。今までありがとうございました。

○稜南中 3 年　井上　玲皇



僕がクラブで頑張ったことはきついことでも最後までやり遂げることです。長距離練習をしている時、みんなは軽々と走っているのに入部したばかりの自分だけ走りきることができずとても悔しい思いをしました。それで僕は自主練習をし、少しでもみんなに追いつけるよう精一杯頑張りました。

そのおかげで以前よりも走ることができました。また、ペアマラソンや駅伝大会などに出場することができました。

たくさんの経験を積んで長距離が楽しいと思えたので、高校でも積極的に短距離だけでなく長距離にも挑戦していきたいです。

未来の目標は、高校で 100m で 10 秒台を出し、いつかは日本選手権に出場できるように頑張りたいです。

○河浦中３年　石井　愛大輝

陸上を始めた理由は、走ることが好きで少しでも速くなりたいと思ったからです。入ってから記録会などに参加し、自己ベストを出すことができたことが嬉しく、良い思い出になりました。練習では苦しいときもありましたが、あきらめず最後まで走りきることを頑張りました。コーチや監督、仲間の支えのおかげでここまで続けることができました。本当にありがとうございました。これからも自己ベスト更新を目指して努力していきたいです。







～OB便り～

○天草工業高校１年　本渡北小～本渡中出身　本﨑　秀虎



僕は小学２年生から楠浦陸上クラブに入会しました。小学2～4年生の頃は記録が伸びていましたが、小学5～中学２年生の頃はあまり記録が伸びませんでした。100mで記録が伸びなくても800mで良い結果を出したりしていました。自分は100mが好きだったんですけど、楠浦陸上は800mや駅伝にも力を入れていて小学６年生の頃には長距離にも挑戦して長距離は短距離に比べて記録が出やすく嬉しかったです。また、駅伝も仲間と一緒に走ることができたのでよかったです。

今、専門の400mは中学２年生の頃から始めました。始めたきっかけは、100mで県の上位に入れなかったことと、岡村太陽先輩に憧れたからです。中学３年生の県大会では上位に残ることもできたので嬉しかったのですが、６月に出した54.03から自己ベストを約11ヶ月更新することができなくて悔しかったです。高校は天草工業に進学して本格的に400mに取り組み高校総体のマイルでは、南九州大会に出場することができたので嬉しかったです。また25周年の時には高校で49.5を出すことが目標でしたが１年生のうちに49.18を出してびっくりしました。なので今後の目標は高校2.3年生までにインターハイに行くことと、岡村太陽先輩の記録、そして県高校記録（46秒61）を塗り替えることです。また怪我をしないようにしていきたいです

○天草工業高校１年　亀川小～稜南中出身　　嶋尾　若那



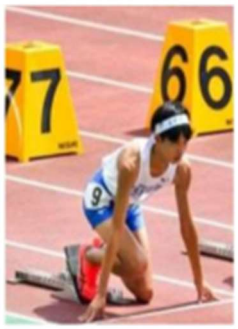
私は小学校２年生から楠浦陸上に入りキツイこともあったけど、楽しいことが多くてとても陸上に行くのが楽しみでした。いちばん心に残っているのは小学校６年生の熊日陸上で4×100mリレーで優勝できたことです。とても嬉しかったです

高校に入り短距離選手として毎日頑張っています。怪我で思うように走れない時もありましたが、その中でも自分にできることを考えて諦めずに頑張りました。合宿などのきつい練習もチームと支え合いながら乗り越え、最近では自己ベストを更新することができました

これからの目標はリレーメンバーに入り、南九州大会に出場することです！

後輩のみなさんもきついことや苦しいことがあってもそれを乗り越えたら、必ず成長や喜びがあるので目標にむかって自分を信じてがんばっていってください！

○天草高校１年　亀川小～稜南中出身　　立川　謙心



小学４年生から喘息のリハビリとして陸上を始めました。小学校の運動会や持久走大会などで活躍できたら良いなと思って練習を楽しんでいました。

中学生になると同時に、本格的に陸上でトップを目指したいと思いNEXTにも頻繁に通わせていただくようになりました。中１と中２は思ったようにタイムが伸びず停滞し、あまり楽しいなと言えなかったです。しかし中３のシーズン初戦で初めて11.78の自己ベストを出すと同時に、記録は右肩上がりでした。おまけにその年の郡市対抗リレーのアンカーにも抜擢していただいてチーム天草を44.19で２位にすることができ、個人種目の100mでも11.53のPB(パーソナルベスト)を残し決勝に進むことができました（リレーのことを考慮し決勝は欠場）。とてもいい経験ができた中学時代でした。

現在は天草高校で陸上競技部に所属して切磋琢磨しながら頑張っています。今年は学年別大会で１年100m4位入賞、新人戦100m準決勝進出、PB11.43に更新といった結果を残せています。

これも今までや現在も支えてくださっている皆さんのおかげだと感謝しています。今シーズンは総体で10秒台を叩き出し、100、200mの２種目で上位に入り南九州大会を目指します。



楠浦小グランド練習



4/19 天草春季



6/21 日清カップ





6/14 歓迎会 BBQ





7 月ネクスト茂木根練習



7/19・20 中体連



8/2 ナイター陸上





10/4 長距離記録会



10/11 天草学童



10/18 熊日学童





10/18 熊日学童





11/9 上天草ロードレース




11/15 チャレンジ陸上




11/22 牛深ウオーキング





11/22 BBQ



12/7 甲佐ロードレース



12/14 えびすマラソン





12/20 RKK 学童駅伝

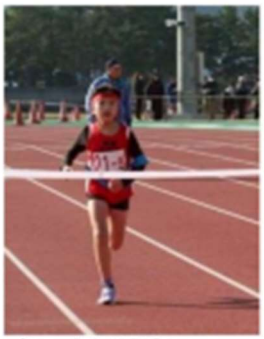


12/27 益城ロードレース



1/3 初詣







1/25 市民駅伝





3/14 天草春季





3/26 ネクスト十万山練習









3/29 お別れ会

～私の自分史～

夢（目標）を追いかけることで変われた人生　　コーチ　濱　いち子

第１章　学生時代 ～走ることが好きではなかった私が、全国へ立つまで

私は10代の頃、走ることが好きではなかった。親は足が速く、姉は陸上、兄は野球と、きょうだい揃って運動神経が良かったが、私はただ走るだけの陸上競技よりも、バレーボールやソフトボールの方に興味があった。それでも中学生（本渡中）になると、先生からの強い勧誘を受け、半ばしぶしぶ陸上部へ入部した。楽しんで練習した記憶はほとんどなく、今振り返れば、昭和時代特有の熱血スパルタ指導によって“きたえられた”という表現が一番近い。



天草高校に入学してからも、中学時代に厳しくきたえられすぎた反動か、県中体連で優勝したリレーメンバーの仲間達は陸上部には見向きもせず、私も同じく陸上を続けたいという強い気持ちは湧かなかった。しかし、今から35年前の天草高校陸上部は、田舎の進学校でありながら、九州学院や熊本工業を抑えて県高校総体総合優勝を成し遂げるほどの強豪校だった。そんな黄金時代に在籍し、素晴らしい恩師や先輩方の熱烈な誘いを受け、私は入部を決断する。そこから始まったのは、これまでとは比べものにならないほどハイレベルな競技生活だった。そのお陰で100m走では、インターハイ（全国高校総体）に2度、国民体育大会にも2度出場することができた。

だが、その裏側で私は大きな壁にぶつかっていた。陸上中心の生活の中、大会続きで公欠も多く、授業に追いついていけなくなり、もともと好きではなかった走ることに加え、さらに勉強まで嫌いになっていった。入学当初は上位だった成績も、どんどん下位に落ち込み、次第に学校へ行くこと自体が苦痛になっていった。それでも、恩師からは学校を休めば叱られ、部活を休んでも叱られる。「陸上だけには、なんとか行かなきゃ…」そう思い、実家が近かった私は、午後の授業が比較的ゆるい書道や家庭科の時間に、保健室へ行くふりをして裏門から自転車で抜け出し帰宅、少し休んでから学校に戻ることもあった。学校を休んだ日でさえ、部活の時間になると部室に行き、練習着に着替えた。先生方は気づいていたのだろうか。それとも、気づかぬふりをして見守ってくれていたのだろうか。試験期間中でさえ、私は太りやすいからと練習をさせられて、1年生の冬には精神的にかなりめいっていた。「足は速くなくても良かった」、「陸上も勉強もない場所へ行きたい」。そんなことを毎日思いながら過ごしていた。

それでも2年生になると、記録だけは確実に伸びていった。南九州大会（6位入賞までがインターハイ切符）で5位に入り、1年生の国民体育大会に続き2度目の全国出場をつかんだ。この頃から、私の中に大きな変化が生まれる。中学時代に全国3位、私が絶対追いつけないと思っていた宮崎の選手がもう自分のすぐ前を走ってる。この人に勝ちたいと思った瞬間「来年は全国出場は当然だが、南九州チャンピオンとしてインターハイへ挑む！」明確で具体的な大目標を持った。そのことでそれまで“やらされている”と感じていた練習が、“自分からやってやる”へと変わり、生活そのものが前向きに変化していった。

そして迎えた3年生。「いよいよ自分の時代が来た」そう思い練習に打ち込んだが、これまで勝っていたライバルに県選手権、県総体でまさかの2連敗。そして迎えた南九州大会。その大会には100m

の他に200mと400mリレーにもエントリーされていた。恩師からの指示で200mの欠場は予想していたが、リレーまでも私の代わりに補欠の長距離選手へ交代すると言われた。1年生の時はリレーの全国行きがかかっていたため、走りたかった100mを欠場させられた。しかし、今回はあの時と真逆で100mだけに集中させ、何とか私を勝たせてやりたいという恩師とチームメイトの計らいだった。そんな思いも背に受けて100mにかけたが、準決勝でライバルとは同じ組となり、私は2位でまた負ける。それでも決勝レース前、私は全く負ける気がしなかった。「この大会で優勝するために、必死にもがいてきた。今日は勝つために、ここに来たんだ！」。得意のスタートが完璧に決まり勝負あり。100分の1秒差で逃げきった。執念が勝って念願の南九州チャンピオンとなり、私は表彰台の一番高い所に立った。他校の選手達からも多くの祝福の言葉をかけてもらった。「やっと勝てた。やってやった！」。仲間と共に陸上で初めて流した嬉し涙。私にとって今も心に残る最も忘れられない、人生最高のレースとなった。



第2章　母として、指導者として～

高校卒業前、私は両親が病気を患っていたこともあり、天草に残る道を選んだ。地元で自分のやってみたい仕事をしながら、陸上は趣味程度で続けていこうと決めた。卒業後まもなく父が他界し、5年前に母が亡くなるまで、そばで支えられたことに満足感を持っていることもあり、私はあの時天草に残った選択を後悔していない。



天草で生活し、やがて二人の娘に恵まれる。陸上を細く長く続けていた中で、大中監督、そして楠浦陸上クラブ・山田コーチとの出会いがあった。娘達も自然と陸上を始め、そこには、私の学生時代とは大きな違いがあった。中学校に陸上部が無かったためクラブや自主練習を主として、娘達は“やらされている”のではなく、“自分から楽しんで”陸上に向き合っていた。長女は決して足が速いタイプではなかったが、技術で伸びるハードルに挑戦し懸命に努力した。美術部なのにハードルが上手いと驚かれていた。次女はそれなりの素質を持ち、中学校では陸上経験者の先生のもとで野球部に所属し球場の外野で練習に励んだ。高校からは私と同じ道を歩み、卒業後は地元で公務員に就き陸上にも携わっている。

「夢（目標）なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成果なし」

これは、次女が中学時代に参加した県陸上選抜合同練習会で、保護者向け講義の中で語られた言葉である。後に次女の中学校で行われた立志式で、生徒達へのメッセージを依頼され、私は自分の学生時代の体験を交えながら、この言葉の意味を壇上で話した。「夢や目標を持つことで、人は前へ進める」。その想いを子ども達に伝えた。

身近な存在として例に思い浮かぶのが、大中監督である。高校卒業後に地元就職をしながらも、大学への思いを捨てきれず、通信教育で勤労学生として学び、自身の練習と3足のわらじを履いて努力されて来られた。

一方、私は高校卒業当時、周囲からは「全国まで行ったのに進学しないのか」と言われることもあり、都会へ進学していく同級生達の楽し気な様子を見て、悔しさを感じたこともある。しかし、その思いがあったからこそ、自分をさらに奮い立たせた。やりたい仕事に就き、目標を持ってスキルアップのために数々の資格取得に挑戦して来た。合格率20％にも満たない難関試験にも挑み「必ず一発で合格する」と心に決め、具体的な計画を立て、仕事の昼休み、家事を終えた深夜まで猛勉強をした。そして陸上活動も続けながら、その目標を達成した。また、日本スポーツ協会公認コーチの資格も取得した。かつてあれほど勉強嫌いになった私が、今ではクラブのため、子ども達のために学ぶことを楽しんでいる。夢や目標があれば、人は変われるのだと実感している。



もちろん、ここまで伝えてきたことが全ての人に合うアドバイスだとは思っていない。私はえらい人間でもなければ、人生には答えは一つだけとも思わない。そして、人は過ごした環境や過去に起きたことを変えることはできなくても、未来は自分次第で変えられると信じている。人生の先輩として、少しでも誰かのため、何かのきっかけになればという思いで、この自分史を綴っている。

最後に～

主婦として、母として、仕事をしながら陸上活動を続けることは、決して簡単な道ではなかった。嫁という立場の中でその大変さも娘達は幼い頃から見てきており、時にはつらい思いをさせてしまった。それでも、次女が高校卒業時にくれた手紙には、こう書かれていた。「本渡のばあちゃんの介護、子どものために長時間働き、その中でも時間を作り陸上の指導に行くお母さんは、自慢で、強くて、かっこいい、目標です」。さらに、クラブ25周年記念誌に綴ってくれた言葉「もうすぐ子どもが生まれます。今まで私が母とたどってきた道のりを、子どもと一緒にできるのが楽しみです」。その言葉に、これまで目指したいもののために努力し、突き進んで来た道は、私にとっては間違っていなかったのだと、心から教われた。そして長女が言ってくれる「お母さんがやりたいこと、行きたい道を、これからはもっと楽しんで行ったらいいよ…」。その言葉に背中を押されながら日々過ごしている。



おばあちゃんになった今、これからも元気で、孫からも目標とされる指導者でありたい。そして、楠浦陸上クラブに出会い、ここで活動したことで「人生が変わった」と、いつか子ども達が語ってくれる…。そんなクラブを作り続けて行くことが、今の私の夢（目標）の一つである。

次年度、山田コーチ編へと続く

令和7年度 名簿＆記録

小学生

No	学年	氏名	性別	学校名	入学年度	最高記録 100m	400m / 800m	他種目
1	6	富田 将生	男	本渡北小	R3.5	14.30	2.26.40	
2	6	木下 倫音	男	亀川小	R4.4	13.75	2.46.72	
3	6	羽山 創志	男	亀川小	R6.11	14.01	2.58.22	3m79
4	6	大久保 遥真	男	本渡北小	R7.8	16.12	2.56.59	
5	5	久保 碧心	男	亀川小	R3.4	16.94	3.15.20	
6	5	田中 新太	男	亀川小	R3.4	14.09	3.21.11	3m56 39m89
7	5	濱 将都	男	楠浦小	R4.4	幅2m64	3.18.80	40m43
8	5	濱崎 龍	男	河浦小	R5.4	15.83	2.57.22	
9	5	鬼塚 琥生	男	河浦小	R6.4	14.91	2.35.60	
10	5	鳩野 晴嵐	男	本渡南小	R6.5	15.94	2.54.22	
11	4	原田 湊悌	男	本渡北小	R4.4	15.33	2.46.59	
12	4	脇川 碧	男	本渡南小	R4.4	17.51	3.10.44	
13	4	上嶋 大陽	男	本渡南小	R4.4	18.09		
14	4	泉 悠斗	男	本渡南小	R4.5	15.49	1.16.53	800 3.03.81
15	4	松本 将和	男	本渡南小	R6.7	17.35	3.12.06	
16	3	田中 蓮太	男	亀川小	R5.4	16.64	1.25.77	
17	3	高瀬 叶翔	男	亀川小	R6.12	16.90	2.43.81	
18	3	平井 蒼大	男	本渡南小	R7.1	17.81	1.23.09	
19	3	鬼塚 真永	男	河浦小	R7.4	17.45	1.27.02	
20	3	山下 暉大	男	楠浦小	R7.4	18.80		
21	3	濱 大和	男	楠浦小	R7.8	20.42		
22	3	木下 結音	男	亀川小	R7.8	17.39		
23	2	原田 悠史	男	本渡南小	R4.4	18.74		
24	2	西富 洸心朗	男	楠浦小	R6.4	20.01		
25	2	木原 新太	男	本渡北小	R7.4	18.85	1.42.42	
26	2	小崎 絢仁	男	亀川小	R7.4	18.64		
27	1	泉 結斗	男	本渡南小	R7.4	18.74	1.35.47	800 3.25.56
28	1	山田 翔	男	亀川小	R7.4	18.29		
29	1	大塚 仁	男	本渡南小	R7.4	19.06		
30	1	田口 立晟	男	本渡北小	R7.4	18.01	1.35.76	800 3.32.62
31	6	小林 美結	女	楠浦小	R4.4	14.94	2.52.06	
32	6	濱 莉乃亜	女	楠浦小	R4.4	16.59	3.28.02	
33	6	竹井 小白	女	亀川小	R6.4	15.00	3.06.82	3m60
34	6	鳩野 暖彩	女	本渡南小	R6.5	16.14	2.52.13	
35	6	松本 結愛	女	本渡南小	R6.6	14.67	2.47.87	
36	5	猪原 恵麻	女	亀川小	R5.4	17.44	3.26.97	
37	5	小崎 杏菜	女	亀川小	R5.4	15.57	2.41.03	
38	5	平田 蓮乃	女	亀川小	R6.4	16.02	3.15.69	1m05
39	5	大塚 桜子	女	亀川小	R6.8	16.65	3.10.94	
40	5	山田 なつめ	女	亀川小	R6.7	16.34	3.20.48	
41	4	小林 優奈	女	楠浦小	R4.4	15.73	2.45.46	
42	4	増田 芽依	女	亀川小	R6.4	17.66	3.30.53	
43	4	堀内 加々花	女	亀川小	R7.4			
44	3	小松 音羽	女	本渡南小	R7.4	18.60	1.35.81	
45	3	坂井 一華	女	本渡南小	R7.4	17.69	1.26.60	
46	3	平田 芽依	女	亀川小	R7.4	17.93	1.26.99	
47	3	谷口 夏音	女	本渡南小	R7.4	18.85	1.37.47	
48	3	立尾 和音	女	楠浦小	R7.4	19.66		
49	2	原田 充瑠	女	本渡北小	R6.4	18.08	1.32.97	
50	2	森下 みつは	女	本渡南小	R6.12	18.35		
51	2	鳩野 心陽	女	本渡南小	R7.5	19.20	1.36.84	
52	1	泉 結菜	女	本渡南小	R7.4	17.73	1.40.09	
53	1	小松 優音	女	本渡南小	R7.4	19.31		
54	1	平井 沙和	女	本渡南小	R7.4	21.05		

中学生

No	学年	氏名	性別	学校名	入学年度	最高記録 100m	200m / 400m	800m / 1500m	2000m女 / 3000m男
1	3	濱崎 蓮	男	河浦中	R4.4		800 2.07.28	1500 4.32.18	10.24.85
2	3	石井 大愛輝	男	河浦中	R5.7	14.16	29.45		
3	3	井上 玲皇	男	楠南中	R6.7	11.57	23.85 56.98	5.28.33	
4	2	久保 琥太	男	楠南中	H30.4			4.50.68	10.29.94
5	2	鳴尾 勇作	男	楠南中	H30.4	11.45	23.16 54.49		幅5m22
6	2	山田 結心	男	楠南中	H30.10	12.28	24.45		
7	2	竹井 蓮円	男	楠南中	R3.4	13.00	800 2.28.81	1500 4.38.02	9.59.95
8	1	本崎 春樹	男	本渡中	H31.4	11.48	23.12 53.90		
9	1	山田 楠太	男	楠南中	H31.4	14.84	800 2.34.29	1500 5.31.99	12.1029
10	1	田中 琥太	男	楠南中	H31.4	12.11	24.30		幅4m83
11	3	濱崎 瑠夫	女	楠南中	H29.4				
12	3	江平 音彩	女	楠南中	R3.4			2.52.44	
13	3	西川 永和	女	楠南中	R2.8				7.22.51
14	2	西富 心咲	女	楠南中	R2.7		800 2.45.79	1500 5.40.98	7.12.60
15	1	岸上 ひまり	女	楠南中	R1.5	13.66	30.74		
16	1	倉田 咲希	女	楠南中	R2.4	14.39	1.07.06		
17	1	下門 彩音	女	楠南中	R2.7	14.79		5.48.04	7.42.11
18	1	小松 夏音	女	本渡中	R3.4	15.37	33.80		
19	1	浦崎 友音	女	楠南中	R5.10	14.30	30.76	2.25.57	7.12.99

※記録は未公認を含むR7年度の最高記録を記載

小学混合リレー　今期ベスト 57.00　田中・木下・小林・松本

中学男子リレー　今期ベスト 45.81　井上・鳴尾・山田・田中

RKK学童駅伝　男子9位　27'28 富田・鬼塚・原田・鳩野・大久保

女子7位　29'06 松本・小林ゆ・小崎・鳩野・小林み

監督	大中 燈
コーチ	濱 いち子
コーチ	山田 祐己
コーチ	森 悠季菜
マネージャー	森 涼音
キャプテン	小林 美結
副キャプテン	濱 莉乃亜
ネクストキャプテン	鳴尾 勇作
会長	濱 将寛
副会長	竹井 真美
副会長	松本 綾子
会計	濱コーチ